

「デジタル推進状況」企業アンケート結果まとめ ～企業におけるDX推進の現状とMicrosoft365 活用による課題～

DXは2004年に初めて提唱され、日本でも2018年頃から経産省を中心として国を挙げての取り組みとなり、2021年にはデジタル庁が発足しました。2023年となった現在、各企業におけるデジタル推進状況は、一体どのような状況なのでしょうか？

IIMヒューマン・ソリューション株式会社（以下IHS）は、企業や省庁でDX推進の中核を務める方々をゲストにお迎えするデジタル推進サロン「[AOYUZU -Salon de Digital-](#)」を2年間で9回、開催してきました。そして「各企業におけるデジタル推進状況」を把握するにあたり、AOYUZUにご参加いただいた方々へのアンケート結果がお役に立てるのではと考え、「企業におけるDX推進の現状とMicrosoft365 活用による課題」としてまとめ、考察したものを本コラムにてご紹介いたします。

DXは「社会や企業の変革・新しい価値の創造」と「業務の改善（デジタル推進）」という2つの側面があります。その中で、今回は後者「業務の改善」についての調査を主旨としています。弊社は顧客企業が新たな価値の創造へ行き着くために、まずは足元の業務改善（業務のデジタル化と現場の時間創出）から進める支援をしたいと考えております。

なお、これまで弊社がAOYUZUを通じて顧客調査をしてまいりましたアンケート結果は、2023年1月に調査会社のガートナー社が発表した「内製化推進の妨げ、および外部委託推進の理由」と同様の傾向を見ることができました。ご参考までに、そちらも最後に紹介させていただきます。

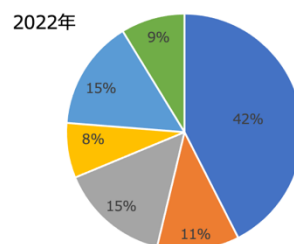
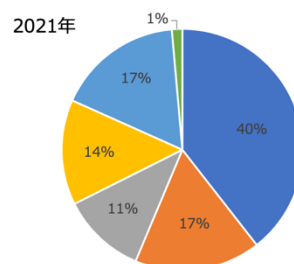
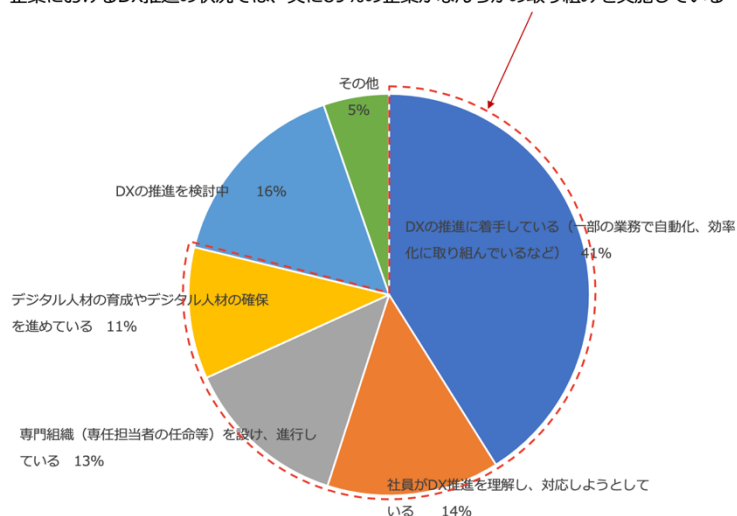
企業におけるDX推進の現状

1. 企業におけるDX推進の現状

AOYUZUアンケート結果より



企業におけるDX推進の状況では、実に89%の企業がなんらかの取り組みを実施している



企業におけるDX推進の状況では「89%」の企業が何らかの取り組みを実施していますが、2021年からの推移を見てもあまり変化はありません。また、DXを推進する上での体制面では、まずは専任担当者の任命などをして進行している企業が多いようです。

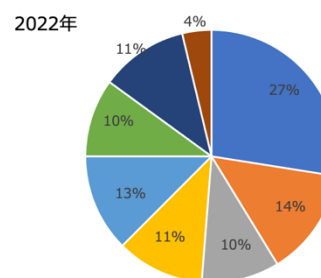
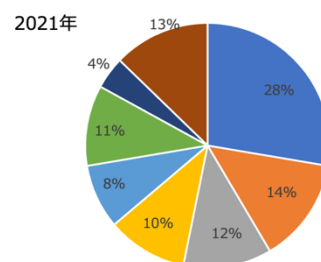
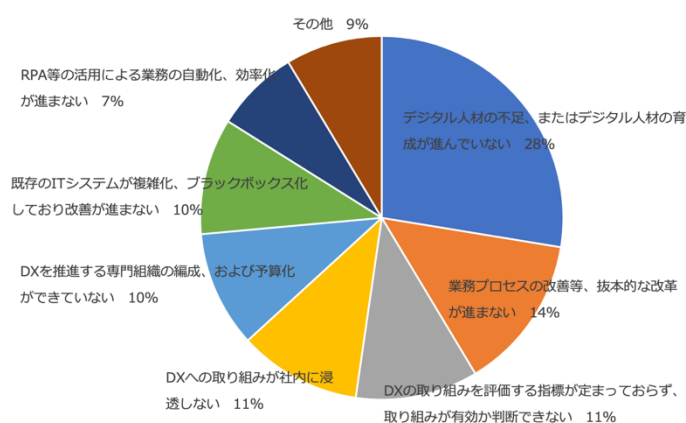
DXを推進する上での課題

2.DXを推進する上での課題

AOYUZUアンケート結果より



推進はしているけれど成果は出ていない？ 現場での課題は？



DXを推進しているものの成果が出ていなかったり、現場での課題を抱えているといった意見があります。要因としては人財採用や育成に時間がかかることが最も大きく、ほかにも業務プロセスの改善など抜本的な改革が進まないことや、業務が煩雑化・ブラックボックス化していることが現場の課題として上がっています。

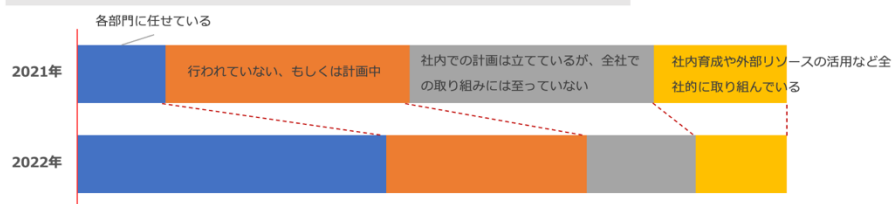
DX推進に必要な人財の育成・確保

3.DX推進に必要な人材の育成・確保

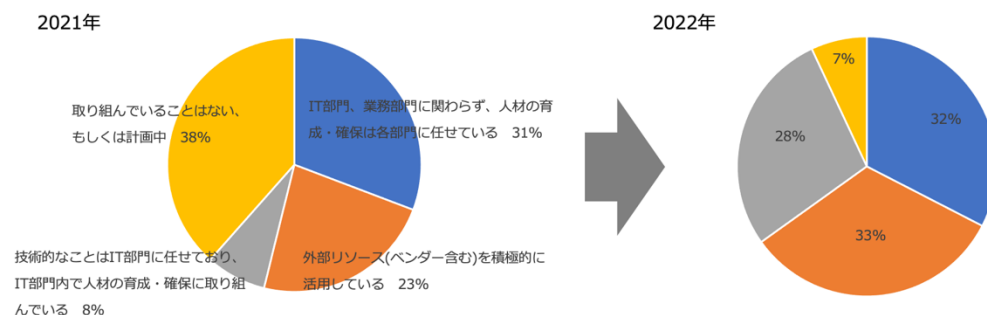
AOYUZUアンケート結果より



DX推進に必要な人材の育成・確保に向けた取り組みが行われていますか？



デジタル技術やデータ活用に精通した人材の育成・確保に向けどのように取り組まれていますか？



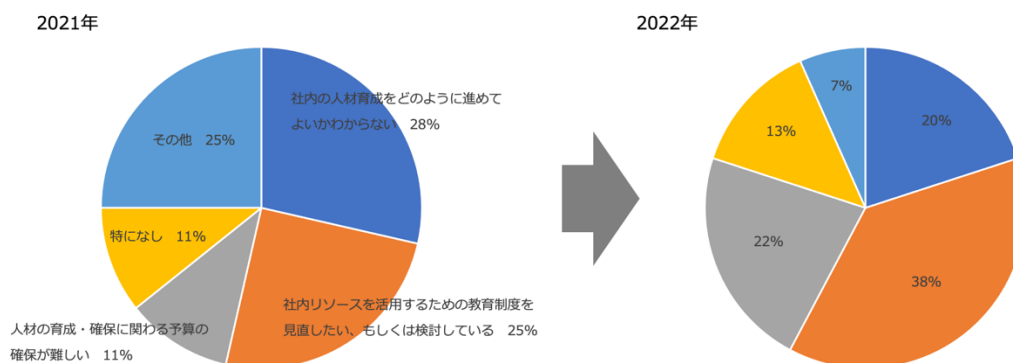
DX推進を進めるべく検討が行われてきた中で、外部リソースを積極的に活用する企業が増えているようです。また、人財の育成をIT部門に任せている企業が増えている、という結果も見られます。

ただ、外部リソースを活用するための予算を割けない企業もあるため、外部からの調達ではなく社内で人財の育成・確保をしたいけれど、どのように進めて良いかわからないという回答もありました。

DX推進に必要な人財の育成・確保に関する課題

4.DX推進に必要な人材の育成・確保に関する課題

AOYUZUアンケート結果より



DX推進に必要な人材の育成・確保に関する課題としては「社内リソースを活用するための教育制度を見直したい、もしくは検討している」という回答が最も多く38%でした。より詳細に聞いてみると

- ・社内育成を基本とした方針の作成や課題の洗い出しは少々時間がかかる
- ・外部のリソースを使用したいがマッチングする人材がいない
- ・人材の育成が進まない、また育成後に離職するなど、人材の確保が難しい
- ・DX推進に必要なスキルが明確になっていない
- ・業務側が開発できることをよしとしない人がある
- ・ITテクノロジーを最優先とする視点で、育成・確保しようとしていることに不満な人がある
- ・デジタル人材の定義をどのようにするかによって、任せる業務の範囲が大きく範囲が変わり進まない

などの声も上がりました。

Microsoft365 活用による課題

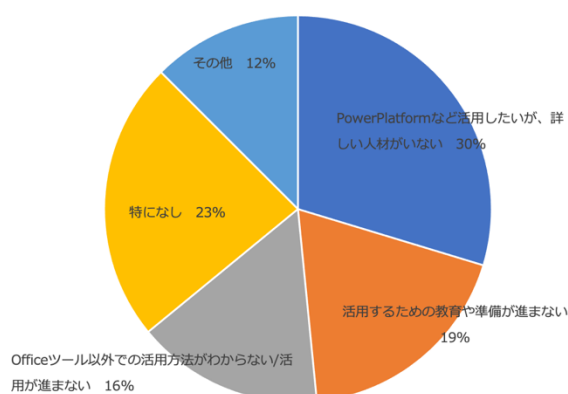
続いて、「Microsoft365」活用についても聞いてみました。

5.Microsoft365 活用による課題

AOYUZUアンケート結果より



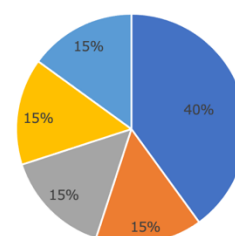
Office以外の活用が進んでいない現状



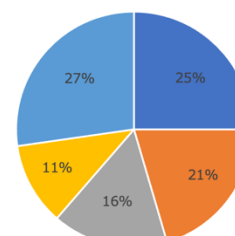
その他の課題

- ・使いこなせていない。PADの応用活用など
- ・どのように市民開発を進めていけばよいのか検討している
- ・スピード感の問題はあるが、進行中との判断
- ・セキュリティ上の懸念によりクラウドベースのツールが利用できない（事業領域固有の課題）
- ・関連機能の活用知識レベルをそれぞれ5段階に分け、e-learningで社内教育する仕組みがある。
- ・拡大利用中
- ・社内システム部門が検討していると思う。各部門で対応はしない。

2021年



2022年



「Microsoft365」の活用について最も多くの人が抱えていた課題は「PowerPlatformなどを活用したいが詳しい人がいないため最大限に活用できていない」ことでした。ほかにも、

- ・PADの応用など使いこなせていない機能がある

- ・どのように市民開発を進めていけばよいのか検討している
- ・スピード感の問題はあるが、進行中との判断
- ・セキュリティ上の懸念によりクラウドベースのツールが利用できない
(事業領域固有の課題)
- ・関連機能の活用知識レベルをそれぞれ5段階に分け、e-learningで社内教育する仕組みがある
- ・社内システム部門が検討していて、各部門で対応はしない

などの声が上がりました。

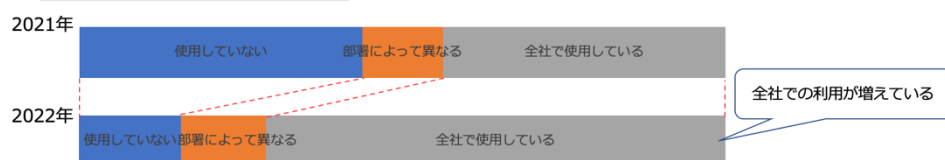
Microsoft365利用状況

6.Microsoft365利用状況

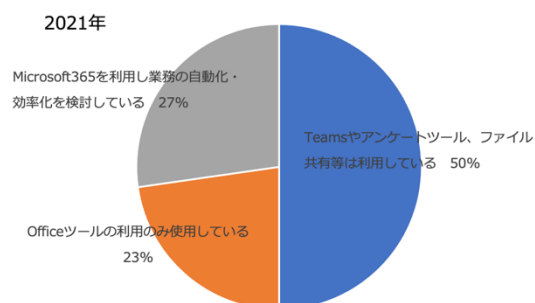
AOYUZUアンケート結果より



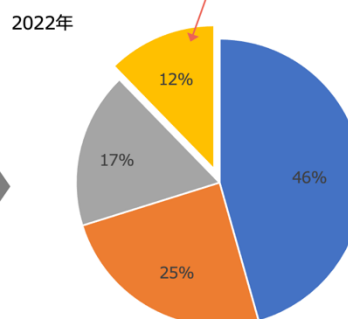
Microsoft365を使用していますか？



Microsoft365の活用状況をお聞かせください。



PowerPlatformを利用し業務の自動化・効率化を検討している



「Microsoft365」全社での利用が増えており、今後ますます需要が増える見込みとなりました。2021年まではTeamsやファイル共有などのツールを利用している企業が多かったものの、2022年からPower Platformの注目度が高く、利用している、もしくは検討している企業が増えています。ただ、まだ始めたばかりで評価や引継ぎなどのメンテナンスに課題は残っているようです。

ノーコード/ローコードの利用状況

7.ノーコード/ローコードの利用状況

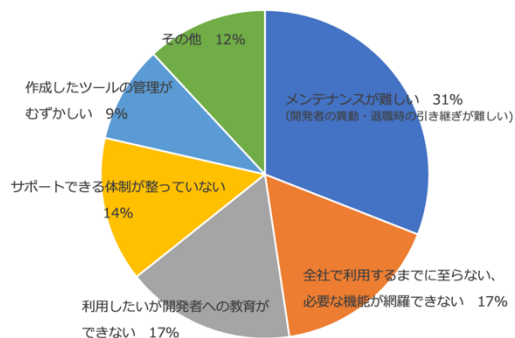
AOYUZUアンケート結果より



貴社ではノーコード/ローコードを利用していますか？



ノーコード/ローコードを利用する上での課題はありますか？



その他の課題

- ・IT部門から事業部門開発、IT側はサポートという体制を実証実験終了で拡大中というプロセス。ローコードはまだ人材不足
- ・社内での開発に着手したばかりなので、課題が明確になっていない
- ・有効性の評価ができていない。
- ・スタートしたばかりでこれから評価
- ・今後のベンダーロックが心配

ノーコード/ローコード開発ツールは、プログラミングの知識がなくてもアプリケーションやWebサービスを開発できるツールや開発手法です。昨年ごろから導入する企業が増えていますが、現場からは

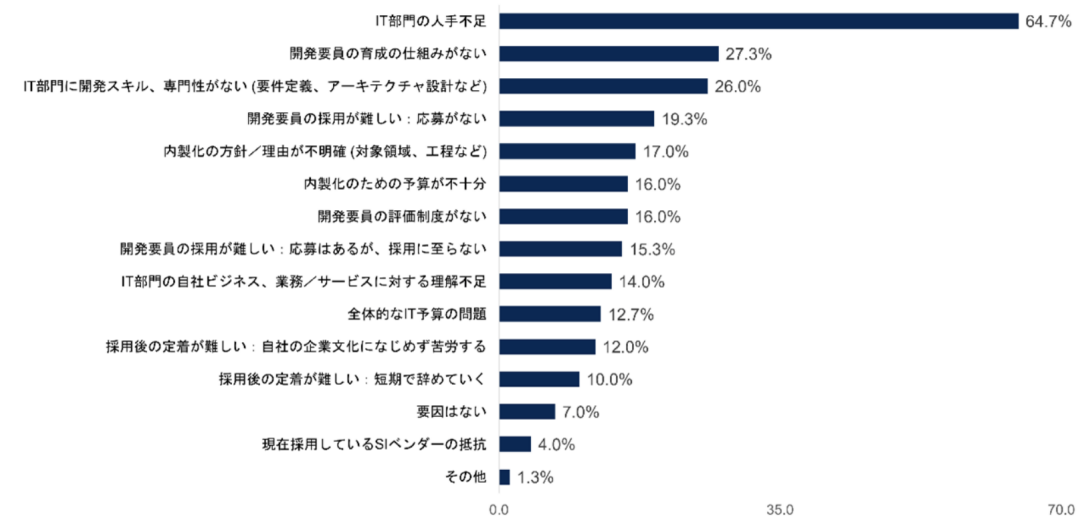
- ・IT部門から事業部門開発、IT側はサポートという体制を実証実験終了で拡大中というプロセス
- ・ローコードはまだ人材不足
- ・社内での開発に着手したばかりなので、課題が明確になっていない
- ・今後のベンダーロックが心配
- ・有効性の評価ができていない。
- ・スタートしたばかりでこれから評価

などの声が聞かれました。

ガートナー社の調査結果

2023年1月18日、調査会社のGartner（ガートナー）社は、「日本におけるソフトウェア開発の内製化に関する調査結果」を発表しました。この中で、特に「内製化推進の妨げ、および外部委託推進の理由」は、これまで弊社がAOYUZUを通じて顧客調査をしてまいりました結果と同様の傾向を見ることができました。この情報を落とし込んでいくと、上記の結果につながるものと考えております。

内製化推進の妨げ、および外部委託推進の理由



n = 300
 SI：システム・インテグレーション
 質問：貴社／あなたが「内製化推進の妨げになると考える」要因をお答えください。あるいは、貴社／あなたが「内製化ではなく、外部委託を支持する」要因を教えてください (複数選択可)。
 出典：Gartner (2022年12月)／調査：2022年4月
 779436

Gartner

ソース Gartner, Inc. [日本におけるソフトウェア開発の内製化に関する調査結果](#)

まとめ

「デジタル推進状況」企業アンケート結果まとめ ～企業におけるDX推進の現状とMicrosoft 365 活用による課題～ いかがでしたでしょうか。

DX化の流れが強まり、IT人材の不足が叫ばれる中、「Power Platform」や「ノーコード/ローコード」への注目がいっそう高まっていることがわかりました。

IHSは今後も自動化支援、クラウド導入支援、ITインフラ構築・運用、セキュリティ、システム開発などのサービスを提供してまいります。ご興味をお持ちいただけましたら、ぜひAOYUZUや無料セミナーに奮ってご参加ください。

本件に関するお問い合わせ先：

IIMヒューマン・ソリューション株式会社 03-4333-1111 / web@iimhs.co.jp

本資料について、事前の許諾なく無断で複製、複写、転載、転用、編集、改変等は固くお断りしております。

Appendix

上記のアンケート結果は2021年2月より開始いたしました「AOYUZU -Salon de Digital-」
にご参加いただいた皆さまからの回答を集計いたしました。

(アンケートの有効回答件数 104件)

これまでAOYUZUにご参加いただきました皆さまの属性は以下の通りです。

参加人数

191 社 327 名

参加者属性：

